

## ハイスクールプロジェクトのキックオフ合宿

10月に離島・中山間地域の町村連携事業として、県内高校生を対象にした「第2回ハイスクールプロジェクト」が開催された。「他校の生徒との交流を通じてお互いを高めあう」「自分たちの学校をより充実させる活動を企画する」というワークショップを通し、学校生活への当事者意識を高め、意欲的に活動することを狙いとした宿泊合宿である。横田高校からも夏に1名、今回3名が参加した。



地域と関わりたいと思って東京から島根にきました。まだまだこれからですが、たくさんの地域で働く方との出会いがあって自分のやりたいことがどんどん増えていくのを実感しています。ハイプロの活動も実現に向けて取り組みたいです。(禎 保名美 1年)



「新生が入り中学校の枠を越えて仲良くなれる企画を考えたい！」一緒に取り組みたい人募集中です！

## インターンシップ（職業体験）

8月に2年生総合コースの全員がインターンシップに参加した。総合コースは就職や専門学校への進学を希望する生徒が中心だが、自分の進路について漠然としている生徒も少なくない。インターンシップを通じて、自分の進路について改めて考えるきっかけにしてほしいと考えている。実施にあたっては、希望する職種、業種とのマッチングを計った。事前のマナー研修等を経て、約30カ所の事業所で3日間の職業体験をさせていただいた。



社員の方が、お客様のことを考えながら、なおかつ効率良くパック詰めや仕出しなどをされている姿をみてとても勉強になりました。3日間貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。(岩名 紗英 2年 実習先：Aコープ横田店)

## 魅力化事業の取り組み 町と連携し様々な取り組みを実施

- ★負担軽減
  - ・JR・バス通学費の1/3補助
  - ・全国大会遠征費の補助
  - ・寮費の一部補助
- ★部活動、小中高連携
  - ・奥出雲バンドフェスタ
  - ・幼小中高連携(幼稚園交流、JAXA宇宙授業、中学生向け入試直前講座など)
- ★生徒募集・情報発信
  - ・ホームページ、学校案内の作成
  - ・オープンハイスクールやツアー
  - ・中学校や県外での高校説明会
  - ・保護者向け高校説明会
- ★コーディネーター配置



オープンハイスクールでの寮案内の様子

## 地域の方と寮生との交流

現在、横田高校には13人の県外出身の生徒が在籍している。地元有志の方の「県外から来た生徒に、奥出雲町を楽しんでほしい」という思いから、寮生と地域の方との食事交流会が昨年始まり、今年で13回目を迎えた。

地域の方のご厚意で、野菜や米などの食材をいただいたり、食事会をきっかけに、生徒が農業体験をしたりお菓子づくりなどを教わったり、様々な体験をさせていただいた。生徒も感謝の気持ちでいっぱいである。



食事会では食材の調理を地域の方に教わりながら交流を深める。



本町の祭りでゲームやお菓子などの屋台出店を行った。

お問い合わせ 横田高校コーディネーター 本宮、長谷川 (TEL 0854-52-1511)

発行 横田高校後援会(平成28年12月発行 年2回)  
横田高校学校魅力化プロジェクト便り



通信

## まちの課題と向き合うことで、地域貢献の意識が高まる

魅力化とは、魅力づくりのプロセス。地域と連携した活動として、奥出雲学・だんだんカンパニー・地域課題研究は横田高校だから学ぶことのできる特徴的なプログラム。

2016年10月。2年生進学コースの生徒24名が法政大学(東京都墨田区)・東京農業大学(東京都世田谷区)にて、大学生を目の前に「地域課題研究」の成果をプレゼンテーションした。地域課題研究では、行政や医療、教育、観光、農業、林業など生徒が興味のあるテーマを設定し、各分野が抱えている地域の課題について学び、その解決策を生徒たち自身が考える。

将来教員を目指す生徒は「少人数教育の課題と提言」を発表し、観光に興味がある生徒は、奥出雲観光資源にジグクスを取り入れたSNSを活用した情報発信の実証実験の結果について発表した。研究を通して、地域の課題に向き合う意欲を高めることにつながった。

## 奥出雲の課題を解決する

地域課題研究に取り組むにあたって県外に出る前に地元の魅力や課題を知って欲しいという狙いがある。森林保全の研究をした青木珠美さんは「奥出雲の森林の課題について、詳しく知ることができたし、取材を通じて地域の方の奥出雲に対する思いを知りとても刺激になった。いま自分にできることは少ないが将来奥出雲の森林のために何かしたいと思った」と話す。

また、空き家活用の調査をした班は、町内3カ所、松江2カ所とフィールドワークを重視した研究を行った。研究を通して、空き家のマイナスな面だけでなく、見方によっては価値になることを学び、空き家を活用した駄菓子屋の提案を行った。とはいえ、自分たちの知識だけでは解決策を見つけるのは難しい。行政機関や専門家、研究者などの助言を得て内容を深めていくことは今後の課題となる。



## 東京の大学生に向けて発表

小中学校のふるさと教育を通じて、地域の魅力をまとめて発表する機会も多い。ただ、それを、都会で育った大学生に伝えるのは非常に難しい。生徒もどうしたら分かりやすく伝えることができるのか、頭を悩ませる。空き家の研究をした糸賀大輝くんは、「地域課題研究では、とても貴重な体験をさせてもらった。将来絶対必要になるスキルを少しは身に付けることができたと思う。班のメンバーと力を合わせてどうやったら大学生に伝えるプレゼンができるのか、最後まで練習することができた。」と感想を話す。

## 地域課題研究の流れ

### 6月 テーマ設定

自分の進路との関連や普段の生活のなかで興味を持ったことからテーマを選ぶ。同じテーマを選んだ数人でチームをつくり、以後の学習を進める。

### 7月 講義・資料調査

町職員から総合戦略の策定や人口減少に対する施策について、講義で学ぶ。

### 8月 取材先へのアポイントメントと取材

取材先を選び、取材先のアポイントメントとは、基本的に生徒だけで行う。



### 9月 プレゼンテーション準備 中間発表会

取材先の方々や他学年の前で中間発表会を実施。

### 10月 東京研修にて大学発表

法政大学、東京農業大学でプレゼンテーション。地域課題を大学生にどう伝えるのか工夫を凝らして本番に臨む。発表後には大学生と意見交換を行い、フィードバックを受ける。